

2011年1月4日

各 位

JXホールディングス株式会社

2011年 社長（高萩 光紀） 年頭挨拶について

本日、当社社長 高萩 光紀からグループ社員に対して実施した年頭挨拶の要旨につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 新年を迎えて

「統合元年」の昨年は、当初想定を上回る成果をあげることができた記念すべき年であった。グループの売上の大宗を占める石油精製販売事業においては、統合により初めて可能となる「劇的な事業変革の実現」を最大のテーマに掲げ、着実に諸施策を展開することができた。

迎えた本年は、統合の真価が問われる重要な一年になる。昨年5月に発表した「中期経営計画」（以下、「中計」と「長期ビジョン」）をベースに、事業環境の変化を先取りしながら、「創造と変革」をキーワードに、攻守両面から「ベストプラクティス」の施策を展開し、世界有数の「総合エネルギー・資源・素材グループ」への飛躍・発展に向けた基礎固めの年としたい。そのためには、現下の厳しい環境をむしろ成長のための絶好の機会と捉え、JXグループの総力を結集し、先手先手に対応することが不可欠である。

2. JXグループの重点課題と取り組み

中計で掲げた数値目標、すなわち2012年度で連結経常利益3,000億円以上、ROE 10%以上、ネットD/Eレシオ1.0倍という目標達成のために、コスト削減、資産圧縮等あらゆる角度から効率化を徹底する一方、中長期の成長に向けた施策を展開し、収益の確実な底上げを図る。統合によるシナジー効果を限界まで追求する中で、グループとしての「ベストプラクティス」を果敢に実行していく。

3. グループ社員への期待

グループ社員に次の2点をお願いする。明るく元気に澆刺と、JXグループの「X（みらい）」をともに切り拓いていこう。

- ①過去へのこだわりを捨てる：構造的変化に直面していることを強く意識し、まずは一旦白紙の「ゼロリセット」の状態に立ち、柔軟な発想で、チャレンジ精神をもって「ベストプラクティス」を実践していくこと。
- ②時間軸を明確にして施策を実行する：事業を取り巻く環境の変化に即応できるように、スピードを重視し、施策実行までを含めた時間軸を常に明確にした上で、早め早めに行っていくこと。

以上